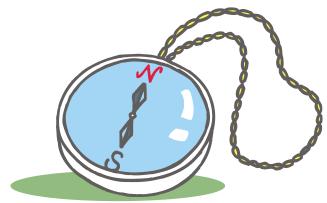


羅針盤

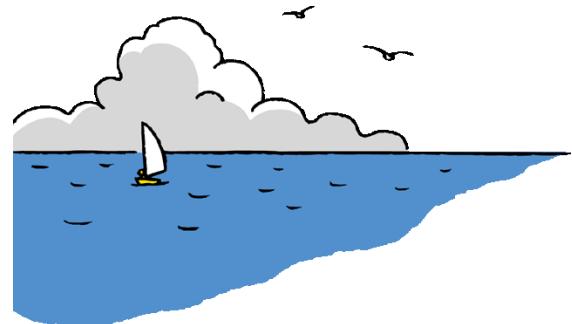


第 13 号

令和5年8月25日（金）

◆ 当たり前のことが当たり前にできる

コロナ禍の大きな影響を受けた3年間という月日が過ぎ去り、5週間（35日間）という長期間での今年の夏季休業期間（夏休み）を、充実した有意義なものとしてすごすことができたでしょうか。生活リズムを崩すことなく、決まった時間に起き、決まった時間に食事をとり、決まった時間に寝ることができたでしょうか。また、この休業期間に仕上げるべき課題にきちんと取り組むことができたでしょうか。この夏季休業中には、部活動の試合や大会が行われたり、3年生の中には高校のオープンスクールなどに参加した人もたくさんいるでしょう。自分自身が立てたこの夏の目標の達成に向けて、努力を惜しまず、頑張りきることはできましたか。頑張れば結果が出る。しかしながら、頑張っても直ぐには結果が出ないこともあります。焦（あせ）らず、慌（あわ）てず、そして、諦（あきら）めず、今の自分自身が持つ課題と向き合い、地道な努力を続けることが、最終的には一番の近道であると思います。やらなければ何も結果として表れるようなことはありません。ゼロはゼロのままで。日頃から、「当たり前のことが当たり前にできる」ということが、何よりも大事なことだと思います。時間を守ることや、忘れ物をしないこと、服装を整えることなど、これらのことはできて当たり前のことです。当たり前のことが当たり前にできる人になってもらいたいと日頃から思っています。2学期には、運動会や文化発表会などの大きな学校行事が行われます。実り多き日々を過ごすことができるよう、生徒の皆さんのお躍を大いに期待しています。



◆ 親しき中にも礼儀あり

生徒の皆さん一人ひとりに自主・自立の確立に向けて心掛けてほしいこととして、『あ・ひ・る』について話をしていますが、その中でも「あいさつ」について、「親しき中にも礼儀あり」という言葉を知っているでしょうか。馴れ馴れしく接することと、親しく接することでは全く意味が違ってきます。学校では、先生と生徒とは同じではありません。家庭では、お父さんやお母さんと君たちとは同じではありません。地域では、お年寄りと若者とは同じではありません。人に不愉快な思いをさせないで、人と人が尊敬し合いながら、人と人が信頼関係を築いていくうえで、「礼」はとても大切です。「礼」に始まり、「礼」に終わるといった言葉にもあるように、あいさつは「礼」の基本となるものです。あいさつはお互いの間に好ましい人間関係を育していくきっかけとなったり、和やかな空気が生まれたりすることもたくさんあります。あいさつをしないからといって、特別な場合を除いて日常生活では非難されるようなことはありませんが、あいさつはその人自身の価値を高めるものであるということに間違いはありません。日頃から、お互いに気持ちよくあいさつすることを心掛けていきましょう。あいさつはマナーであり、社会のグローバル化やIT化がどれだけ進んでも、生まれた国や文化が違っても、あいさつが「礼」の基本をなしていることに変わりなく、時代は進んでいくはずです。